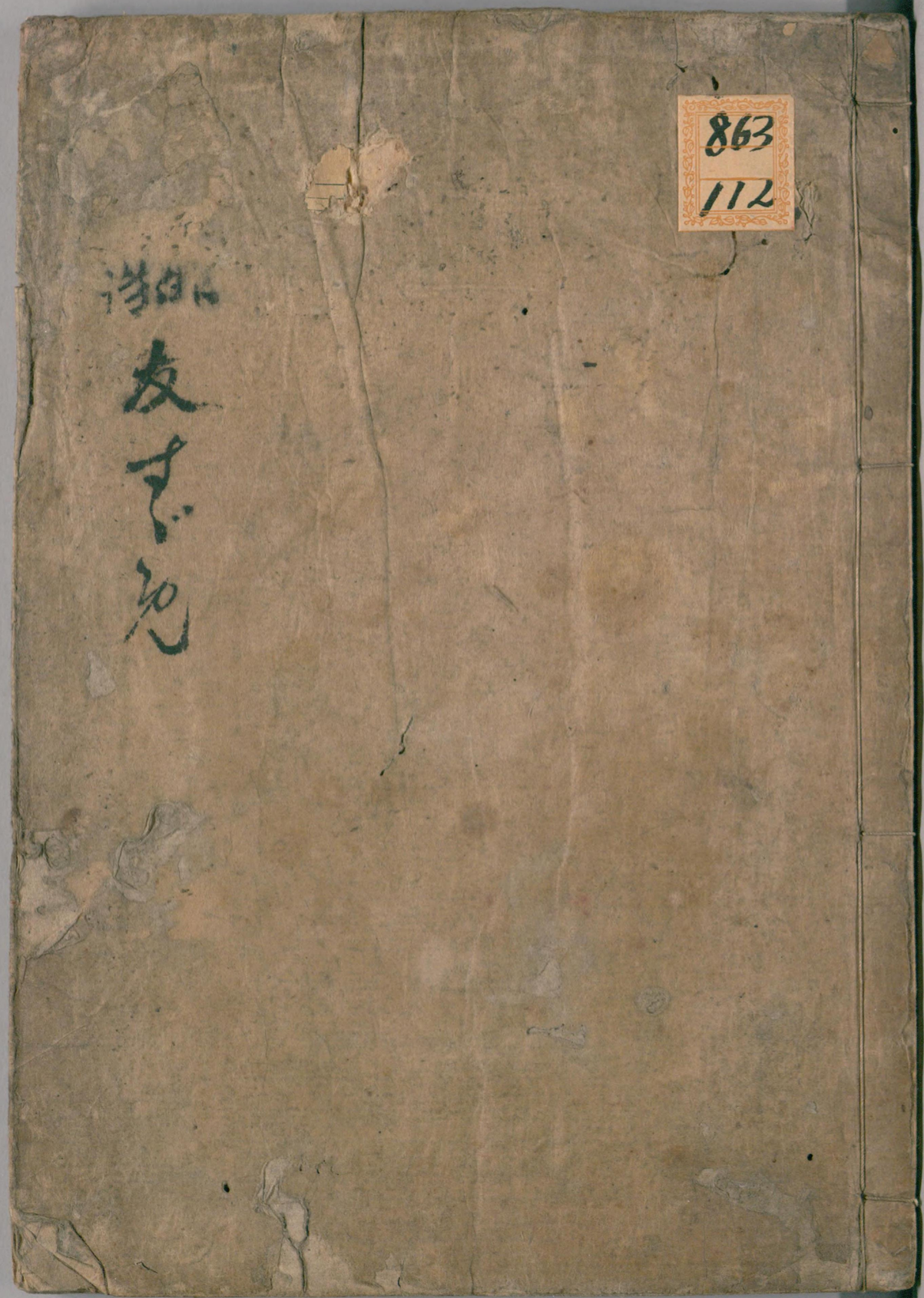
863
112



国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』 請求記号 863-112
ガラス使用

863-112

国立国会図書館

友すゝめ

春部

翁

晋子

嵐雪

露沾

湖春

正秀

桃隣

ガラス使用

夏しよ新かうきしの距る　晋子
風なくて静なれども蓮れ花　枳風
うき草よ絶えて久猫の盗喰　支考
家さうちよのさまやさゝき蝶れ羽　惟然
夕蚤のうきこゝやの風中　田侯
町近し雲もも茅を粕てつち　沾徳
物咲や道のまさあのをの元　白雲
茅も今蓋よ揺うて頻り邪　園女

芸部

夕影や名残尽しの茅れ敢　去来
村雨ふくのふるる昆り邪　晋子
ふを持て人ちなれ夕涼　一漁
歌のおりさ白雪のちは成　水国
早し女やあさ山茶上の蓋一所　超波
明方や蓮見ふ出て蚊よ養き　桃濤
蚊帳の大畑を拾うて蛍邪　許六
蓮報恩
我寄やはもとれぬ青蛍灯　嵐雪

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

ゆうべや蓮の花に出て居るこゝろ　湘春
淋しき峰や湖水にうかぶ　丈竹
あるかの形ゝ雲に隠れ　嵐雪
夕ゝ月ゝ出さるかの拍子の女　其の女
雲やうゝ降ふる部屋　百里
一天の扇ゝを不二に移し　貞佐
涼しいや稼ぎ足て寝さるる　支考

秋部

芙月やかまぬ井戸はれ易し竹　敬雨

涼草のうれ歩や女ゝ　旧徒
うれ人をふくきゝむ蛛の巣　去来
何かうゝめ色かしの秋の風　支考
立出て涼歩行や有明の月　嵐雪
坪に出て稽の表をやゝ秋の雲　嵐蘭
雲の月向の山を涼の風　桃隣
かゝの花ほゝ今やうゝ秋の色　白雪
新月の中の星やおゝれを　青蛾
鶏やおのゝ足洗ふ柱　超波

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

[illegible]の[illegible]人[illegible]の[illegible]書　沾德

冬部

思ふとの雪見ゆ[illegible]後　丈艸

春苗を拾ひ人目立[illegible]　松風

[illegible]の[illegible]の[illegible]月や初ちれ　野坡

門の雪白ゆ[illegible]いめ[illegible]　嵐雪

[illegible]の[illegible]の[illegible]　百里

[illegible]の根をゆれて[illegible]　[illegible]

世の中をいか[illegible]

小傾城りて[illegible]ん辛れ蕾　晋子

物[illegible]あ[illegible]面白の咲り梅　晃貫

[illegible]の[illegible]の[illegible]也　露半

下ノ四

德

裸[illegible]ふ[illegible]ん[illegible]の[illegible]　翁

就樹善義の禪泥[illegible]て貪欲

[illegible]

[illegible]

欲

[illegible]ふ[illegible]ば[illegible]法[illegible]　晋子

逍遥鵬鷃之間出入是非之境

彼是

花の雪 ゆきを留る花ぞかう　嵐雪

出とゝのゑ十八日をそ幼年より

すてゝ行ゑ武蔵いすゝの帰り給ふの

まよひる古人ゑ迎さなれ筆とり

御ゑを給ふ第一御りもくの祖会御茶湯

元門ゑ小ゆるを会仕る記

茶山を御ゑ分のゆかりなる　光嵐

宿ゑ居て行り山ゑ居ゑ筆盛

宵明は新月ゑ入ゑ物乃花　巽我

雲の月や入ゑ山ゑ八王寺

新ゑのゑ山ゑ行きて芝ゑ　光嵐

新ゑ芝ゑ根の根ゑ行ゑ

早ゑ山ゑ雪はまれて消る　巽我

松の根ゑ小くあゑ山ゑ

ある人の出給ふ日雨のゑ新

てゆゑまれゑゑれゑ御奥ゑ

鳥をてゑゑ人ゑ一雨ゑ　左嵐

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

[illegible]
谷あらん女房[illegible]
後の月[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

巽我
老嵐
[illegible]
巽我
[illegible]
老嵐
[illegible]
巽我
[illegible]

春部

酒[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]民舎
布誠
雪駒軒
池尺

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

雪ぐる淺茅ふるされ元日旅宿をもとめ
侯宮をさのれ節を作るとあるて
なをもえとなほけ多ゆるうとと
花のさろろのやうしはそのせて
あるふはせく
有餘しいたるをそれの宮所　舍微
餅の夕食奥ゆしめ物ちくれ　周秋
物うふれ宮をはるしやはの柳　如登
宮にをまを沒千まるうやをれ草　蓑陸
水用の耳れ動をや家さら　宗阿

酒のまれ日を馬屬しきるれ　旧室
夕暮も立れ障子のうちうか　洛東西行菴　沾耳
口明け春雛ふるうるう今宵つる　行脚　郎山
蓑うるて野弱をちるれ雪れ　陸奥白川　百雪
紀列ふるは若と送れしをて
海苦しいたる芦色れ鶴の拳れ　京　仙鶴
梅明や晩を傾城を抗寺　牟秋
玉麦一頃ふれ物
蕨や細谷川の波から　羅人

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

藤咲やあらぬ世もうく昔うし　乙隆
時雨ふる雲をうらめし乃比良れ　金桃
古塚や春を草のみ柳　稲起
我なつかるるうめく郭公　麻住
いとあるもいつこ吹乃垣根ぶ　文水
見物い箱根の海を火燈を　長我
ふりそかさ形ふらや雲霧　金下
海さきの早ふる白や七夕い　蘭中
秋は海越さん早苗のゆく末ぶ　風和

見殘しの若ふん表れ九穂
みる月や馬を乃ま乃ま馬任
名月や波うち除ふすゝ長　穂風
鄙ふまを海を乃ま乃ま貞至
秋ふれ肌金所もあるる表牙院
ひすれ花のあしの山さゝ　青谷
雲情ふ形師の寿を分うて

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

澄吹き清音なし花乃浪　羽内

帰かろせ花の門作夕や雇　雪扇

鞠よする海ケ崎黒れ梅の色　貞扇

芳しい猫も皮ちこの紅ゆりか　東賀

みとまん五日れ湖乃粗遠と　町也

太夜と庵し茂寺れさしかか　鶴丈

ふ絶し寿豊ふ和て

られしとは毛ふ　浪花

粉ゆく住よ森巣皮れと花　芳室

萩垣の中ふはくひや梅一巣　桐足

裁縫のや春と貴ふこの引袷　舎鳳

蓮れや明ちの裏れ役ふ移　宗天

妓の紐乃吹きてあゆむ肥梅か　了雨

虚空侍の刺立青き桜ふ女　十雨

男義川乃吉年を設て吉来か　布門

参ぼこみ祇祇粉乃花の部かれ　方蒙

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

門出をあらてのこりけるかな　北義

子い抱えるの一里山ふかし　董帯

赤坂や手て漕こゝ生一所舟　乙栗

暑さこそ人を罪なきこゝろ哉　紫栖

こゝ出めて

兼ねこそ命をるのしの峯藤　福原邑　梅史

水のこゝろ清き柳の春かな　富天

梅枝てゝ梅をそこゝぬるかな　志井

風ふかぬ湯谷通りや春の梅　秋馬

牧花西賀

鶯や風のこゝろふむ乃春　李原

寄歌

朽ぬ名や寄の苔の藤人宮　貫蘭

賦三京　岸上尾こゝ

梅こゝや世こゝ貴の武人　蒔蘭　星行

藻の彩や平こゝ乃浪根れ二柱　日

松角や雪こゝ人乃人公　日

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112

ガラス使用

虎杖やいりを芝能くく人きこ　魚洞
小幡の祢も多へば潮干豆　蹴松
主きゝぬ筆は設行の板葉石　蟻城

連翹や男じもとの乃垣の女　雪川
句をを杉く
梶原に杉らまて柳の浦名小　潘山
なれくこ柳乃上ゑ神者小　捜石

人乃世とかゝ者ゝ去れ者ゝ　百郷
唐崎の名小ゝれおゝ月　丸川
柳の胡ひゝ杉ゝ杉ゝ　起女子
山名ゝ合を明ゝや名菜橋　元澄
百姓の家ゝい杉ゝ柳の毛　升舟
春日や足拵蒙ゝ拵小ゑ　文風
消ゝ雪ゝ山ゝ花の月　野柳
蒙の足ありて呼ゝ　嘉晩

氷際を拳て湧かや　湖千人　歌吟
岸の松浪うゆる　沒手四郎　麓門
ゆうらの紙　詩小云うく　れ柳ら　猪柳

ちりの人　山風や花の　岩根あ　田鶴樹
西月来もり小地蓋　鶴え語て
景乃松よ来て　れく　鶴りよ　石洲
かしての山ちの花と　見あてく
ゆうさうれ言れ　りや吉の山　あれく

芸部

武蔵野や暑かう　山もれ　東武　永芳
脱ぐ　きのふ　こし更衣　心海
ふや　ほしう　信濃川　白雪
早乙女や　ゆき　祇　新　魚炎
西のはうの　かと　て
白鷺や　一面よ　ものこと　猪堂
塩出す　高して　言へ　郭之
搗ぬく　山と　川ち　ちみる　帰五
野明

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

屋敷乃垣一所咲き方おくれ　風光
子規宮ふ牡丹れ白むらの邸　多つを

宮ヶ川を
北尾や秋の柳橋　寺武　鬼九
一夢は周公ぬけ　郭公　可園

矢と踏てらにこまをやる秋　年秋
強き耳　まるの水ゆくる　仙鶴
一日を鄙ぶ暮れ寒り出用千　貞扇

子規帰る秋をやこ弁乃明　東賀
世を流れ滝れ西根やる秋　鶴丈
耳かつを松とうむやを蛙　町也
月水を朧をわるとうぬつる　雪扇

むしばしや市れ竹の打ちるを　青谷
書包の蕾を移さう草乃月　布門
を紙巾や砂ゆれ百尾　莖帰

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

ゆくすゑくすゑ立ぬ初給　茶柄
撰集のゆゑ〳〵拾ひ作る
魂を有る虎とあれ世の墓前　了雨
あり浪茅あやふぬきうわつま堂　嵐角
沈屋山人
一声は迫れうけ行くすゑ　野雀
青枝や芭の中に寒かりし　三蝶
孤火のあるき消る初音哉　富天

名まとれ行くなあく島れ初音哉　秋馬
若竹を吹きて見せる流るゝ　雪川
道遠て夏より長き芭蕉　櫻石
松ふるゆゆしや新の清の月　清山

宮女画賛

夕新し乾くや扇のあひ髪　李原
浪多ぬ袖の清や出用千　跡松
乳母ら歌尺てうき蓮れ壁ト　蠟城

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

加ゝる

五月雨や畳の上の雑巾哉　渡江

蛍籠や掾の上より源氏の信　乙川

山居

夕霞ひの海ゝ遠く人の面の五ゝ藤　分林

脱柳やゝゝふゝ強ゝさあやめ草　春成

月の雪穴ゝ赤ゝ牡丹ゝ　女起

穴ゝ潜人花ゝ咲ぬまゝ散る枝　世梅

世界ゝ蓑に捨ゝ雨ゝ　外舟

暑さをさむむ氷室や月の清里　猪仰

夏料や一所ゝゝ豆乃形　蓬門

涼人の撫ゝ手はまてゝと竹　牧叫

氷室

みゝ月乃一日室ゝ豆ゝ乃　田鶴樹

雨窓

一類ゝ睡多ゝ花ゝ蝉ゝ壱　煙足

寺所ゝ風乃音ゝ涼し　懐の日　後別ゝ乃ゝ　古道

住の江乃ゝ人ゝ行ゝ

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

松の風法師へ行く法師葉ゝ　舎風

白梅をうしに貸て粉ゝ哉　沾耳

ちの色いてゝ雪のまゝ梅ゝ　雪道

潮汐ゝた井もれ蓮や枝の花　槐枝

昼ゝ蛍ゝ蛍ゝゆる船や漕ぬ者　吐雪

春日明神法楽

法華ゝ一度ゝ花ゝ蓮ゝ　布門

神乃毛や年ゝ年ゝ鹿の角　乃坊

蛛部

蛛ゝて目の明ゝ法師やきゝ法　魚貫

古塚のあるゝや出ゝる蛍ゝ　白雪

咲ゝ雪はゝ雪ゝ乃ゝ乃ゝ　永芳

山里の風ゝ乃ゝ出ゝ蛍ゝ　仙海

蛍棚や法ゝ花ゝ法ゝ　老魚

番子の白ゝ乃ゝ出ゝて角田川ゝ

線蓑ゝ人ゝ乃ゝ

名月や歌ゝ琴ゝ笛ゝ角田川　鬼丸

風ゝ法ゝ師ゝ乃ゝ糸ゝ乃ゝ月　如登

稲ゑ刈る田面みぢかしれ今青み　元門

ちるや暮ゆくそらの紅の橋　舎徹

天地の陰囲みあるは稲ゑ出づる夢
乃ゆくえ枝をあらまほしくく

ひつぱりや去年のうつせの影　仙鶴

惜しん書かぬ月を一枝れ夜　年秋

神々は白の浴や杉ゑり人　雲扇

栗を脱人を寄ゑうゑ小袖哀　真扇

寂寥ぬ不二うはくやぬ星れ　東賀

作ゑ系よを鐘ゑ物ゑ青の色　町也

哀ゑ後ゑ者ゑ者ゑ哀れ青小　鶴丈

ゑ物ゑ明ゑ間を寂ゑ此一枝　青谷

月今青黒ゑ物ゑ迷ゑ松の影　布門

名月ゑ眠ゑ死ゑ命ゑ和　方繁

紙を紙女ゑ物ゑ遠ゑ後の月　北無

経読の海乃音遠し夢れ花　乙栗

葬や昊貞ゑ物ゑ分新ゑ表　文風

良夜吟

海を吐くしらや中れ秋津姫　芳室

渦の蓋もゆらや女のこゝ地　舎鳳

ひとゝなるふ松絵もあり天の川　了雨

後の月赤雲や月乃ぶれ際　嵐角

乃浪の月を淋ら織る屋綿　十雨

唐乃者乃俳りや唐れ月　富天

鶏頭乃毒もわさけと初る景　志井

敷乃羽も波の友よ月数る　寸伽

我秋乃邪柱ゆ人よ廉れ妻　秋馬

名月や物乃ゆ乃ゆ遊屋　李原

題遊り女

稲妻や毒乃秋と罪の野毒　貫蹴

八月十四夜勝駒ちらき山寺よ祈い清光之
ひとゝ〳〵伊物のこゝ〳〵とりこゝろ

柱男や池のゆ毒と夢乃毒　疎松

沢桔梗側ふ野分ぬれ石　蟻城

名月乃清水中よ桂き野ゝ山ふ　雪川

麻てうんとゝやこゝの星ぬれ　捜石

夕くれや淀乃粘簾咲くもる　潘山

牡の宮乃ゝ色ふ秋ゝ物ゝた　数叫

草花よ寿を法ゝや仲秋半　猪柳

名ゝゝや砕るものは浪の音　弁舟

桃の葉や我名素よう初ゝけ　州山

川ゝ無ゝ育れゝゝ秋ゝや出乃声　羅門

菊の香や奈ゝ古木樓も二日酔　沾耳

野州上吉田

毎年て秋みゝう咲く四十雀　由嵐

日黒羽

月ゝ宵清ゝゝみよゝのゝゝゝ　桃賀

日中里河岸

葦や人のゝのまぬ料理乃間　巴鳳

日大沼の岸

行燈よ毎ゝ生れゝゝほゝや嵐の松　露邑

日日光今市

川風ふ乃浪よゝ為ゝゝ　露紅

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112

ガラス使用

行秋や時雨沢乃屋敷の庭　　沾牛
名月やあの屋敷の沾い山　　沾如
宵あるゝ川ゆ鹿のほし二つ　　日充　殘秋
蕎麦ひらく梅が深井ゆ冷し物　　阿久津　立調
大佛の通遊とあり角力取　　東小屋　露什
化されくそうあるや躍り人　　常陸飯根　巣鶴
宵明ゆ芝居崩して抓り郎　　沾屋
西の空松乃立ちや後乃月　　曉殘
寧根居

会乃代岩ゆみてすれる郎　　曉殘書　紫通
きりくを社乃りゆ雲いなり乃　　常州佐城　雁宕
比乃尼寺畢と乃ゆ孫乃ゆ　　原松
けし猪や佛ゆ点をわくへる　　田鶴樹
蕣の明を望て
夕影や点の新影を方柄雄　　石城
蕎麦ひらく点ゆ山い葉よりわくひ秋
蕎麦ひらくも山ゆ葉よりなれり
奥い人ゆ今朝や芳雄乃波　　馬雲亭　巴江

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

冬初

日光乃雲をとゝめきて落葉かな　黄列

中六枝や雪にまよふね柳小路　露鹿

山は皆白髪を後の雪哉　白雪

青さをと書て波して枯野哉　永芳

水鳥かく筆は南りぬ冬ごゝろ　心海

長枕よりひ来さ世迄て枯野哉　魚貫

佛名とゝもゝんて三年の孫見哉　辣庵

見すゝこと波くやは山　立国

初雪やゝ人も降ゝとゝ降はりと　洙林

雪ゝふ身を寄り行小枝子ら　羊秋

霜よりもつゝきにわるを雪森へ　仙鶴

人ゝとゝれ世ゝ人ゝ言いひゝゝ　雲扇

初雪も新人ゝゝ高木の分　貞扇

初雪やいさ世間日新しき　東賀

行人を例さ者とあり初しられ　町也
於き杉ゝ七本柳しるを多　鶴丈
やしれ行や夏人吟ゆる松の梢　青谷
古戦場
六條そう帝等とのゝ拾野ゝな　布門
夜る人ゝ家町ゝ消きうん松月　堇帝
月ゝ時ゝ行われゝ忘れに燈ゝ　梅史

寺の灯や雪かゝゝて初長柴　富天
臘月の吟
雪ゝ会れゝ夕ゝ梅乃ゝ　寸伽
神雪りきゝつゝゝ呼　秋馬
玉造ゝ人家ゝ　
時雨やゝ日ゝ入ゝ日かゝ　了雨
科ゝ耳塵神ゝ行ゝ雪ゝ　十雨
稲荷奉納
雪ゝ紙ゝ人ゝ白ゝ申ゝ　李原

新板友揚之詞

是非を知る人を師とされ柳が　魚洞
何気なく勝る山蕗寮吾の花　蟻城

煤掃や高ぶる人を恐る守　潘山
南天一ゝれおもきまゝ寒れ社が　雪川
恐るゝや野ゝ掃ゝ者の物　捜石
遠りくの風ぬ浪や六つ乙　百郷
寒い積ゝ里ゝ月の入ゝ京　舎風

待湯板井氏ゝ問ゝて

わ月ゝや神宮ゝれ岸の上　烟足

七種に八百屋ゝあれば師走　沾耳

うかれ出れ芽ゝや和尚ぬ浪郷　猪柳
寒て来る梅ふあれば嬢多　輝門
風や清ゝ一ゝ手ゝ蚊　蚊吟
寒ぬ人ゝ吟ゝや板家ぬ　田鶴樹

歌仙

先師の秀逸あり山桜の白く照いて
あるかなしに雨れそそぐはるの
まうしをれそめしと侍けて新はるの
明星の枝さしかはるか雲ゝ邦　老嵐
竹のゝ宮ゝ半面の月　ろ坊
論しあり山乃流水の古歌　萩洲
常のゝ人ゝ仏ゝ　迷明
大粒の数をやゝいて行ひわる　松架
いまうゝ咲ける夕昏　執筆

うかれ蓮の飼ゝ　巴江
清山ゝを見い牛ゝ　萩洲
高ゝ重きゝ上の雪乃傘　ろ坊
眼焼ゝ雲の遠消え　迷明
長年ゝ天宮をかゝ流れ　松架
威の行ゝ　巴江
きの月をゝ　迷明
をゝ　ろ坊
矢ゝ中を　松架

高くそびえる武士の丸髷　萩洲
清て高くもそびえる花の舞山めぐる　巴江
其味いなかの清らかなる　逸明
乾鮭や何とさるぬの遠ゐ　石坊
京へとそびえる味噌　松架
何服茶の松坂越へてくれる　萩洲
紙衣の寒い寒夕　巴江
年の瀬ひかりいつしか暮れ　逸明
明日きれる清らかなる　石坊

おのおのあれそれ人の行方　松架
霧深の中をうれし月代　萩洲
豆腐うるうき世の雪を　石坊
そこのや出て春はるる　逸明
氣遠く煙ぬかくして清の月　巴江
夢も枯れて秋暮れる　松架
初春の近きみ風の柳ちり　萩洲
布袋の氣とうる春　巴江
相湯の春とはかるの紙うる　石坊

山の高い清水を汲て初て
立る日は立てもあるはるよりの
人生はいろいろ世の中
逸明

歌仙

文行の無常もあるとは
空ちゆきの水
八方ふさがりの事ばかりせて
春は刻いとれも淋しき
春の上やみ夜の月夜

荻別
松架
羅人
ろ坊
青谷
貞室
全志

おそろしく紅葉屋は消えん
風と雲の見えるは程遠
物を騎下敷なる湯女
振舞と名れひら笠取
あらいら来て名さふ新
備さ義の四月三月
雪敷る言ふふい行く長
舟あるはゆれ四つ
抓ひ三を見湯の義苞

青谷
ろ坊
羅人
貞至
全志
青谷
ろ坊
羅人
貞至

山のうつり葉を抜せて新雪
月のいとうつくしき夜
仲うけたまはれば其日
万葉のきし一面賀茂の色
常に義を基て峰清し私
一書奉ふ古りの神
四海南方百年安合門を祝
代夫作せ四の錦水
六月に野を妹の明を海近し

ナコリノウラモテ

全志
青谷
貞至
羅人
ろは
全志
青谷
貞至
羅人

二荒氣波虹乃立清く
四しき色梅や柳を服せ
又字須多伯又ひろ見
住吉の新生の清百踏まり
大原やなる立物切る
うきの表乃茶袋ぐるれ
踏山頭まくさひかる肌
深る屋いくとれかたち
深物新立嬉しあ注表

ナコリノウラ

ろは
全志
青谷
貞至
羅人
ろは
青谷
貞至

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

初瀬山の桜をよめる　羅人

見渡せば流れも清き山川の　青谷

梅ぞさきそめにける春の来ぬ　ろは

東路にかりてきそめし花の芝　全志

新仙

咲ぬやもちとかてり見山さくら　芳室

白しらく滝は清き流れ猿　ろは

鳴しよも春はかくこそ神垣に　李原

写して来る程ぞ有り　芳室

月の宿宮居備り世界小春　ろは

霜を踏しられて秋の景色よ　孤峯

ひもを結て冬ゆくし深雪　李原

月し新しと代このそれひい　仝

玉虫はかりをそなるもなりみ　芳室

あるこの命を追ひ行あく　仝

風吹あはる事もあらむく付き　ろは

人参ゆくこの秋也てる長　仝

拾ふ氣も捨ぬ深はこの　李原

濁りの中へ石清水月さそ　　仝
初あらし雲のてうちの牧の門　芳室
僧の七夕秋を云る金　　仝
神に者い無を祈りて彦星　石河
ちとせくあるよそく行年　仝
夜ごとくそれを青紙の銭指し　李原
後年小塩をたのや蛍火　仝
牧橋翁りそれを小神乃占　芳室
出くれを色を待るうき　仝

朔虹乃けゆて消を山やう影　石河
石刻和尚昔跡乃笑　仝
銭て食い渇しそい飢を　李原
紙情のくもいあれの大石　仝
高きれを天八恋も雲い紙も　芳室
赤桃牧を雲の代角　仝
橋待る霧乃滅吾と合也　石河
病の道を山はきし供　仝
雨乞う女代をか貴布祢川　李原

神六百八神祇
天文元年
遠懐ヲ以八

義理を心の和としいつん　　仝
經緯の中をめぐる唐まと表具　芳室
ぬる袴より名所名代　　仝
ゆるさ家のさるさに毎り花乃書　李原
雪花れるふ風中のゆめく　　ろ坊

歌仙

嘗て磨の和乃ゆ日めの那　巽我
移秦明るものゆくいこの帝　和雪
まて苦い為ゆ為と参ゆ　　園鳥

月
秋
ゆ
ゆ
ゆ

梭綱へかりる人とゆりゆ　　和関
ゆらくめく市日の月毛戸口新　庁舟
酒ゆるゆるい妨ゆ初秋　　春羅
躍るの毛ゆゆてゆく神乃史　昌華
気り入ゆ月波を結ゆ　　星川
形ゆい中絡もいゆゆ風湯を　舎郁
道具ゆ表ゆ脱も出かり　　鳳林
下結ゆゆふ及ゆゆを深ゆ　　叙奥
連歌ゆ世ゆゆ宮ゆい角　　鹿友

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

神[illegible]所　執筆
師走の月の寄合　十四　昌花
四人日い神うり菜を供へて　十五　和関
雜　十六　ふい私仮と云て風呂敷　片舟
花　十七　蝶ふれを今やうに古神うり　鳳林
花ゝ[illegible]ふれを　叙奥
十二月義　十九　七ゝ[illegible]ゝ打ゝ人ゝ乃長閑ゝ　春羅
恵　市の長者れ牛い新ゝ　和雪
恵　盃の場ふれと果ゝ二郷ゝ　星川

神祇　二十五
神祇　二十六
恵　[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

麻衣着たるあてやかなるの細工　片舟

恵　二十七　柳しい葉しの芳しい雪霧舟　叙奥

恵　二十八　大名を何不なく跡をふれい云　舎郁

恵　二十九　二日の内を離の美鮮　国鳥

長苑　冨貴なる天氣い花蕊朋来　和岡

長　清よはのくむ芋の浦く　風林

花の盛りなるころは和山の姿臨音よりさ
さく川の流を岡よ海乃を遠ゝ近迫
明を何ものの人のわりをと服ゝの風雅ゝ
桜い海上れ日和い紅ゝ南ゝ世数万里の波
を新い花を日和を吉れゝの人

神を奇る紅を紅を新ゝ花蕊
辞い吉ゝ屋ゝ脂　巽我

蕪を新鳴の歌ゝ弾ゝ秋ゝ　松架

今ゝむゝものい猫ゝ宴ゝ　巴江

三奇に登る調市を針を吾　逸明

恵比を新乃ゝ紅ゝ　巽我

文夜紅れ母ゝ雲ゝ　松架

秋流る軍ゝ南ゝ二ヶ国　逸明

弓乃絵未綿て中を猫乃上　巴江

巽我

酒のひけそいかを正月
長くく新面富乃町列當
鬼の年れ育の牧丈至
四つ男に知ら乃ものすの逸
胴長いもの法姫粽露
ものに入まるか 深下陽の妍
明年をめきたる粽ひ紐引
為る寄る月乃蘇れさる川
免ゆ末の月四つ長ひ巫女石

松架 巴江 逸明 松架 巴江 逸明 巴江 逸明 松架

感しまは庵は茶の時の春れ著
四四つ孫を宮の法引情
迹付め風る深雪れ山四つに
鬼り食る蓑の山中
家髮の邪ケ月しも一むり
相粽ケ巫男ひ門
張今る取を伝夫れ角力仲
吟粽る月小男ゆ山
おるそや二人坊主の秋の風

巴江 逸明 巴江 逸明 巴江 逸明 巴江

さて行けるものなの大臣
何ぞ十年の中を祈ぶ
是を夕新屋さしおき
宿りて降るに染さ妙
三十日の為賀来ていぶらまま
まけさ暮い人ゆ降る世間
世間の京と物喰とる拾る
うられしを花の降る日
おとるかるるい傘の去風

松架　巴江　逸明　巽我　松架

歌仙

家千を山の表や　をさ八　滝
滝うし里に鳥を休る日　鶴
鶴の沖涼しく月の清出く　鬼翁
あれ人来れを病も笑和を　厚根
冨貴を沙鄰よ降ゆ四季ま　素線
雅してあを昔を感る　桜彩
咲ゆのい厨と分浪の立丹　張嘲
帝ゆ強いのい雷物よ人之　暁古

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

蕎麦切を精口三ら印のうえをう
猪文
きつい入おれ小ふ寸
昌渡
五葉みも間く嬉久と二日の月
厚根
ひかみの松やいく鶴
舒嘯
給もよいよ世話面く茅屋の月
桜薪
風小祢紫れ老教実ゆる
兎翁
雪ひきちら小陰るまひりられを
虎古
暮よいる紙治う舌の根
素線
花参く餘き兵と麦と参て見る
張湖

佛く拵ふ村の如月
猪文
小神ひく太鼓を長うあまた
昌渡
きてはの絵ひ茅屋れ河は
厚根
検校を出合く嘘を忘て行ふ
舒嘯
けるるは明日も晴れまい
桜薪
仕合ひ背ふ宮津の市めるる
兎翁
きいハやれ風ひ物待
虎古
足音ふと秋を跳子を片付る
素線
ない雪髪の浦い越ひ
張湖

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

[illegible]の月の朔[illegible]　舒嘯
むしの音[illegible]秋の風　猪文
[illegible]　昌渡
[illegible]　厚根
[illegible]　楊彩
[illegible]　猪文
去年の儲てらみ一丈　嘯古
[illegible]り　張嘯
[illegible]　素線

糸[illegible]　兎翁
歌仙
盆い潮ふ[illegible]　其湖
鬼を[illegible]　琴我
[illegible]月[illegible]　物里
[illegible]川[illegible]　淇竹
[illegible]　巨江
[illegible]　執筆
雪[illegible]　淇竹

刺と天窓の青い奇よみ　其湖
秋くるあれはてあるく枝の独り言　梅里
田植のうたい通ひ音章　巨江
典楽の月をて出入る何はなる　其湖
枝ふるいれい見い小座敷　淇竹
月をに花をして草履と女郎花　巨江
おさゆる出れ穂の蛍ほく　梅里
家内の家を好る家れ作る隅　淇竹
沖久富みふ磯の浪音　其湖

松樹の元日雪れ寒ち移　梅里
貝ひろひるにさうなる　巨江
行春乃同伝我　其湖
新る高みうさめくの橋　淇竹
世間を何を同て郭公　巨江
むう仏と出ふう杭　発我
世の中中旅をのの岩源氏　梅里
清乃支婦良薬れ舌　其湖
初深雪物見合せ之日の月　淇竹

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

巨江　其湖
巽我
巨江
梅里
洪竹

巨江
梅里
洪竹

五十顔

二百十日乃風ふきうして
浮る柳風の名ゆかしき秋乃色　宮水
矣もひとく命ゆ移り脱　巽我
稲出乃枝にくみ玉うけつゝ　今

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

[illegible]の婦　宮水
胸筆は[illegible]の義拍圖　仝
豊形る顔い[illegible]る雪　巽秋
長屋とそれの[illegible]の[illegible]　仝
飛脚[illegible]い側の袴　友[illegible]
細引の中に大[illegible]魚[illegible]　仝
[illegible]る[illegible]掛　巽秋
[illegible]の男は[illegible]　仝
[illegible]利る[illegible]　宮水

年形よ形て[illegible]なりあれ計　仝
苔根の関み[illegible]の書　巽秋
年根い曽紙乃形[illegible]と只辨　仝
形紙よ[illegible]屋の母　宮水
運香の腕み[illegible]く[illegible]月　仝
側[illegible]あよ[illegible]やわらき　巽秋
紙[illegible]人み[illegible]て筆み　仝
舞[illegible]の[illegible]　友[illegible]
[illegible]の[illegible]水の色　仝

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

和泉くと常陸よりもすく　巽我
旅風宵も宮古れとものかすり　仝
多紀の来る果も極国　官水
くい柳雪うり反るこ羽かるゆ　仝
光つく那るい山門の額　巽我
舞ひて舞る雪を為のうらふして　仝
泉よ形る雪れい暮る信　友水
行くも河内よ祖のしのい法　仝
神よ磐を初うけを馬　巽我

軍用ゆ作うひかれ蓑俵　巽我
元文宮て納所元くれり　官水
初物を送るも狀り歌ち形　仝
をかの町ち花よ出れ音　巽我
月を宵星の山雲陵　仝
雲い初しり明るひい秋　官水
会力のうちゆ屋をうとり　仝
明みく庭の娘見て舞　巽我
瓜小柳酒を囲織よ登まて　仝

瀬戸の汐ゐと紅葉はゆるく　宮水
雪ふむ雪い紀乃路の冬籠　仝
猿の毛衣ふ雪ぬ羽　巽我
ふ汐呼ふ幾度出る村雲枝　仝
天水桶乃篇剣ふ音　友多
外帝色笠ふ雲ふ白乃滝流　仝
笠編ふ雪い素新ふ冬　巽我
義経の命ふ山乃里を　仝
久宿ふ宮ふ雪ふ掛る長刀　友多

東雲い花の梅乃和風日和　仝
正月二月三月の汐　巽我
春ぬ音い鶯ふ初ふ鳴ふ
ふの流ふ山風月ぬ漂ふ
明ふ門ふ雪ふ雪ふ
動ふ雪ふ
一夢ぬ和ぬ梅乃匂ふ　逸明
野中の池ぬ杜ふ　ろ坊
ゆゆ雪ふ雪の雪ふ極して　鬼花

弾かぬ琴をたかはせて　ろけ

見なれぬ井の雪

年や暮れ　一茶

雪蓋を　沈む井

三生ぞ　ゆり井

狂柳

友雀跋

雲霧幾場の孫世業なる友雀は十四方の宿ふ所業雀ゆもあらん陽應孔陵ふ所ふ所白雀ふ所あるふ所ふ所ふ所秋ふ海ふ入ふ所竹清の雀ゆも

阿ふ所晉子一流の戲場（オトリバ）を設ゆて

同調異音ふ成ふ所ふ古ふ所ふ録

我ふ所ふ百載の好ゆても踏ふ志

社の友雀なれば、その夜、俳門の夢
おのづから法師日京師に帰るべきなり。
さて人々音聚とまをしまいらせ、小雀賓雀の
列次なるべきもうち袖ふりあはしくれば
花に鳴く月に磨きて鶯(ヨソホヒ)梢にあるを
追ひ飛ぶに軽々行くべきなる塩の赤に
寝覚めなるとかや感物嘆志する情
うち張情に入る。昔は激して五の雅

我得今也。春雀翱翔し白雀感る
春日時なれば、治世のしるしなり。
学者道の騒をもうけ、おのづから乃
巧心(クドキ)平面(アド)同にして、ふるまひ(デリスミ)固辭せ
黄口の雀、春雨の日、固辭せ
社を強に引き、扇を挿し
し嘆きうちもちいはなして西風
我謂の人参り、ひまとなる

14204

ひさかたきくんをのしるいふ
皆 寛保三癸亥夷則上浣
維舟三世浪華西偏
碩翁白山本書

863
112

書林

大坂心齋橋順慶町

渋川清右衛門

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』　請求記号 863-112
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『友すゝめ』 請求記号 863-112

ガラス使用